

令和8年度 野田女子高等学校 1学年シラバス

目 次

<教科>	<科目名>	<対象生徒>	<ページ>	
国 語	現代の国語	全科	1	
	言語文化	全科	3	
地理歴史	公 共	全科	5	
数 学	数 学 I	全科	7	
理 科	科学と人間生活	全科	9	
保健体育	体 育	全科	10	
	保 健	全科	12	
芸 術	音 楽 I	食物科 音楽選択者	14	
	美 術 I	食物科 美術選択者	16	
	書 道 I	食物科 書道選択者	17	
外国語	英語コミュニケーション I	全科	19	
家 庭	家庭総合	生活文化科	21	
	生活産業基礎	生活文化科・食物科	23	
	生活産業情報	生活文化科	24	
	保育基礎	生活文化科	25	
	ファッション造形基礎	生活文化科	26	
	家庭基礎	食物科	27	
	調 理	食物科	30	
	栄 養	食物科	32	

<参考資料> 令和8年度入学生教育課程表（各科）

科目	現代の国語	単位	2単位	学年	1学年
使用教科書	新 現代の国語(三省堂)		副教材等	常用漢字ダブルクリア(尚文出版)	

学習の到達目標	実社会に必要な国語の知識や技能をつけるとともに、論理的に考える力や豊かに想像する力を伸ばすことによって、言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
---------	--

評価の観点		
A:知識・技能	B:思考・判断・表現	C:主体的に学習に取り組む態度
主張と論拠など情報と情報との関係性や、情報の妥当性・信頼性の吟味の仕方について、理解を深め、実生活の中で使うことができる。	「読むこと」において、文章の種類を踏まえ、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確にとらえることができる。 「話すこと・書くこと」において、目的や意図に応じて、適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確に表現できる。	「読むこと」や「書くこと」を通して、主張と論拠との関係について理解し、実生活での言語活動に生かせるように粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整することができる。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	○「届く言葉、届かない言葉」(情報を要約する力) ○「わかりあえないことから」(情報を関連づけてまとめる力) ○「人が死なない防災」(情報を集めて選ぶ力)	<ul style="list-style-type: none"> 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色などを理解し使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確にとらえ、要旨や要点を把握している。 文章を読んで筆者の主張を読み取ることに意欲的に取り組み、「現代の国語」の学習に前向きに取り組もうとしている。 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色をふまえ、配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。 「話すこと・聞くこと」において、相手の理解が得られるように表現を工夫している。 言葉に対して興味をもち、場面や目的に応じた言葉の使い分け、敬語、類義語の使い分けの学習に積極的に取り組もうとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出物 小テスト 定期考査

2	<p>○「水の東西」(説明の方法を理解する力)</p> <p>○「コインは円形か」(さまざまな視点から情報を捉える力)</p> <p>○「宝探してみたいに本の世界へ入っていきま</p> <p>す」(説明の仕方を考える力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色などを理解し、使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 「書くこと」において、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、文章の種類や、文体、語句などの表現のしかたを工夫している。 表記に注意を払い、正しい表記で係り受けに気をつけながら書こうとしている。 文、話、文章の効果的な組立て方や接続のしかたについて理解している。 「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明のしかたを考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現のしかたを工夫している。 「話すこと」の学習に興味をもち、伝えたいことをわかりやすく整理して話そうとしている。 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色をふまえ、配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。 「話すこと・聞くこと」において、論理の展開を予想しながら聞き、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。 「聞くこと」に興味をもち、正確に聞いたり必要な情報を聞き取ったりしようとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出物 小テスト 定期考査
3	<p>○「檻の中の街」(事実をもとに未知の事柄を押し量る力)</p> <p>○「小さな哲学者」(情報を関連づけてまとめる力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、要旨や要点を把握している。 論理的な文章を的確に読み取ることに興味をもち、論理展開をとらえようとしている。 実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めている。 「書くこと」において、目的や意図に応じて、適切な題材を決め、情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。 さまざまな分野の本に興味をもち、積極的に読書に取り組もうとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出物 小テスト 定期考査

科目	言語文化	単位	2単位	学年	1学年
使用教科書	新編 言語文化 改訂版(大修館書店)		副教材等	常用漢字ダブルクリア(尚文出版)	

学習の到達目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技能	B,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する深めるようにすることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとすることができる。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	言葉の森を育てよう 言葉と愛 とんかつ 古文への招待 いろは歌 児のそら寝	<ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈するとともに、自然に興味を持ち、日本独特の自然の味わい方に関心を持っている。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文章の構成や展開、表現のしかた、表現の特色について評価している。 日本語の表記の特色について興味をもち、表記について調べたり考えたりしようとしている。 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 文章の構成や展開、表現のしかた、表現の特色について評価している。 読書に興味をもち、登場人物の人間関係や印象的な言葉などを意識しながら作品を味わおうとしている。 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確にとらえている。 古文を読むことに興味をもち、積極的に読みに慣れようとしている。登場人物の行動や心情を読み取ろうとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出物 小テスト 定期考査

2	<p>漢字と仮名の使い分け</p> <p>羅生門</p> <p>十二の「子」文字</p> <p>徒然草</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確にとらえている。 ・日本文化の特徴について筆者の主張をとらえることに興味をもち、日本文化の特色について理解を深めようとしている。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・作品に興味をもち、小説の構成や登場人物の心情の変化をとらえようとしている。 ・我が国の言語文化の特質や外国の文化との関係について理解している。 ・文章の種類を踏まえて、叙述を基に内容や構成などについて的確にとらえている。 ・作品に興味をもちの物語や説話の内容を積極的に読み取ろうとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
3	<p>訓読のきまり</p> <p>格言</p> <p>再読文字</p> <p>借虎威</p> <p>論語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 ・漢文に興味をもち、訓読に意欲的に取り組んでいる。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出物 ・小テスト ・定期考査

科目	公 共	単 位	2	学 年	1
使用教科書	『公共』(東京書籍)		副教材等		

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会の諸課題について考え、そのために必要な概念や理論について理解するとともに、諸資料から必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・ 現実社会の諸課題の解決に向けて、学習した概念や理論を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察・判断する力や合意形成を視野に入れた議論する力を養う。 ・ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、公共的な空間に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
一	第1部「公共のとびら」 第1章 公共的な空間を作る私たち	・公共的な空間を作る「私」について、過去・現在・未来を見据えながら、考えていきます。	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントや確認テスト、定期考査を通じた基本的事項の理解 ・学習用タブレットを活用した調べ学習やまとめ活動
	第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方	・公共的な空間における規範について、幸福や公正といった価値と関連させて理解を深めていきます。	○	○	○	
	第3章 公共的な空間における基本	・現在の公共的な空間を支えている社会的制度について、日本国憲法の原理に	○	○	○	

	的原理	着目して学習していきます。				
二	第2部「自立した主体として社会に参画する私たち」	※第1部で学習した事項を基に、各章でのテーマに沿った具体的な問題を通して各課題を追究していきます。				
	第1章 民主政治と私たち	・民主的な政治について、具体的事例から、現在の制度や仕組みについて考えていきます。	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントや確認テスト、定期考査を通じた基本的事項の理解 ・学習用タブレットを活用した調べ学習やまとめ活動
	第2章 法の働きと私たち	・実際の法律を通して、法や規範の意義や役割について考えていきます。	○	○	○	
	第3章 経済社会で生きる私たち	・身近な経済に関する事例を取り上げながら、経済社会のあるべき姿について考えていきます。	○	○	○	
	第4章 私たちの職業生活	・将来の職業選択を見据えながら、働くことの意義や社会参画、自己実現について考えていきます。	○	○	○	
	第5章 国際社会のなかで生きる私たち	・私たちの身近な問題から国際社会の課題を取り上げ、国際社会の今後について考えていきます。	○	○	○	
三	第3部「持続可能な社会づくりに参画するために」	※第2部の学習を通じて関心を持ったテーマについて考え、それを発表し議論することで、現代社会のさまざまな課題について深く探究していきます。		○	○	

科目	数学 I	単位	3	学年	生活文化科・食物科・衛生看護科 1 年
使用教科書	最新数学 I (数研出版)	副教材等	パラレルノート数学 I (数研出版)		

学習の到達目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを旨とする。
---------	--

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身についているかどうか。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする態度が養われているかどうか。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	第1章 数と式 第1節 数と式	・2 次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深めるとともに、問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりする。	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・パラレルノート提出 ・テスト訂正提出 ・中間考査 ・期末考査
	第2節 実数	・数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をする。	○	○	○	
	第3節 1次不等式	・不等式の解の意味や不等式の性質を理解し、1次不等式の解を求め、1次不等式を問題解決に活用する。	○	○	○	
	第2章 集合と命題	・集合と命題に関する基本的な概念を理解するとともに、集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明する。	○	○	○	
2	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	・2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに2次関数の式とグラフとの関係について、多面的に考察する。	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・パラレルノート提出 ・テスト訂正提出 ・課題考査 ・中間考査 ・期末考査
	第2節 2次方程式と2次不等式	・2次関数の最大値や最小値を求める。 ・2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求める。	○	○	○	
	第4章 図形と計量 第1節 三角比	・2つの数量関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象とのつながりを考察したりする。 ・鋭角の三角比の意味と相互関係について理解し、三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解する。	○	○	○	

	<p>第2節 正弦定理 ・余弦定理</p>	<p>・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導き、正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連づけて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求める。</p>	○	○		
3	<p>第5章 データの分析</p>	<p>・データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察し、分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその使い方を理解する。 ・目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択し、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりして分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する。</p>	○	○	○	<p>・授業態度 ・平行ノート提出 ・テスト訂正提出 ・課題考査 ・学年末考査</p>

科目	科学と人間生活	単位	2	学年	生活文化科・食物科・衛生看護科1年
使用教科書	科学と人間生活(実教出版)		副教材等	アクセスノート 科学と人間生活(実教出版)	

学習の到達目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探求するために必要な資質・能力を育成することを旨とする。
---------	--

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	自然の事物・現象を人間生活と関連付けて、問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求している。	自然の事物・現象に進んで関わり、問題を見だし、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求している。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	第1章 科学と技術の発展 第2章 物質の科学 1 材料とその再利用 2 食品と衣料	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解する。 ・科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現することができる。 ・身近な材料に関する観察、実験などを行い、金属やプラスチックの種類、性質及び用途と資源の再利用について、日常生活と関連付けて理解する。 ・食品と衣料に関する観察、実験などを行い、身近な食品中の主な成分の性質や、衣料材料の性質や用途について、日常生活と関連付けて理解する。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・実験レポート ・定期考査
2	第3章 生命の科学 1 生物と光 2 微生物とその利用 第4章 光や熱の科学 1 光の性質とその利用 2 熱の性質とその利用	<ul style="list-style-type: none"> ・生物と光に関する観察、実験などを行い、光が生物の生命現象に及ぼす影響を理解する。 ・微生物に関する観察、実験などを行い、微生物の働きを日常生活と関連付けて理解する。 ・光を中心とした電磁波の性質とその利用について日常生活と関連付けて理解させ、科学的に説明できるようにする。 ・熱量の保存、仕事や電流による熱の発生、エネルギーの変換について日常生活と関連付けて理解させ、科学的に説明できるようにする。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・実験レポート ・定期考査
3	第5章 宇宙や地球の科学 1 身近な天体と太陽系における地球 2 身近な自然景観と自然災害 第6章 これからの科学と人間生活	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽などの身近に見られる天体の運動や太陽の放射エネルギーについて、人間生活と関連づけて理解する。 ・身近な自然景観の成り立ちや災害について、人間生活と関連づけて理解する。 ・これからの科学と人間生活との関わり方について認識を深めるとともに、科学的に考察し表現することができる。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・実験レポート ・定期考査

科目	体育	単位	2単位	学年	1年			
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)		副教材等	現代高等保健体育ノート(大修館書店)				
学習の到達目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力を図るための資質・能力を培うことができるようにする。							
評価の観点								
a,知識・技能		b,思考・判断・表現		c,主体的に学習に取り組む態度				
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けてようとしている。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養おうとしている。		運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養おうとしている。				
学習項目	学習内容および評価の観点			a	b	c	評価方法	
・体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決についての運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 ・体づくり運動に自主的に取り組むとともに互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどなどしたり、健康・安全を確保したりしている。 			○	○	○	授業態度の観察 体育実技ノート レポート ※体ほぐしの運動は技能評価を除く	
・器械運動	<ul style="list-style-type: none"> ・技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。 ・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。 ・鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。 ・平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができる。 ・跳び箱運動では、繰り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うことができる。 ・技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 ・器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどなどしたり、健康・安全を確保したりしている。 			○	○	○	○	授業態度の観察 体育実技ノート レポート 実技テスト
・陸上競技 (短距離走) (リレー)	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受 			○	○		授業態度の観察 体育実技ノート	

(長距離走)	<p>渡して次走者のスピードを十分高めることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができる。 ・動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することにも、自己の考えたことを他者に伝えている。 ・陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをして、健康・安全を確保したりしている。 	○	○	○	レポート 実技テスト
<ul style="list-style-type: none"> ・球技 ゴール型 (バスケットボール) (サッカー) ネット型 (バレーボール) (バドミントン) 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・ゴール型では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによって、ゴール前への侵入などから攻防をすることができる。 ・ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 ・球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合おうとするなどをして、健康・安全を確保したりしている。 	○	○	○	授業態度の観察 体育実技ノート レポート 実技テスト ルール等テスト
<ul style="list-style-type: none"> ・武道 (柔道) 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などについて理解している。 ・柔道では相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防をすることができる。 ・攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 ・武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをして、健康・安全を確保したりしている。 	○	○	○	授業態度の観察 体育実技ノート レポート 実技テスト ルール等テスト
<ul style="list-style-type: none"> ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組もうとしている。 	○	○	○	授業態度の観察 体育実技ノート レポート 小テスト ※技能評価を除く

科目	保健	単位	1単位	学年	1年
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)		副教材等	現代高等保健体育ノート(大修館書店)	
学習の到達目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を培うことができるようにする。				
評価の観点					
a,知識・技能		b,思考・判断・表現		c,主体的に学習に取り組む態度	
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けようとしている。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える能力を養おうとしている。		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養おうとしている。	

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	現代社会と健康 ・健康の考え方 ・生活習慣病などの予防と回復	<ul style="list-style-type: none"> ・国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることを理解している。 ・健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解している。 ・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 ・現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度の観察 ・保健体育ノート ・小テスト ・ディスカッション等の事例を用いた活動 ・定期考査
2	現代社会と健康 ・喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 ・精神疾患の予防と回復 ・現代の感染症とその予防 ・健康の保持増進のための適切な意思決定や行動選択と環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解している。 ・精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解している。 ・感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解している。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度の観察 ・保健体育ノート ・小テスト ・ディスカッション等の事例を用いた活動 ・定期考査

		<ul style="list-style-type: none"> ・健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解している。 ・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 ・現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。 	○	○	○	
3	<p>安全な社会生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な社会づくり ・応急手当 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること。また、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解している。 ・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を身に付けている ・安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。 ・安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度の観察 ・保健体育ノート ・小テスト ・ディスカッション等の事例を用いた活動 ・(応急手当) 実技テスト ・定期考査

科目	音楽 I	単位	2	学年	1年(食物科・衛生看護科)
使用教科書	高校生の音楽1(教育芸術社)		副教材等	なし	

学習の到達目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く係わる資質・能力を育成することを目指す。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	1 オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方や評価の観点、年間の活動の流れに見通しや関心を持ち、意欲的に取り組もうとする。 ・楽しく学習するための音楽室でのルールを理解する。 			○	授業態度 ワークシート 実技テスト
	2 「校歌」	<ul style="list-style-type: none"> ・「校歌」への愛好心をもつとともに、歌唱への意欲を高める。 ・発声の基本を知り、実践することができる。 	○	○	○	
	3 歌唱による表現	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞や楽曲が作曲された背景から曲想を感じ取り、自分なりのイメージをもって歌うことができる。 ・独唱・重唱・合唱における表現を工夫し、その楽しさを味わうことができる。 ・音楽を形づくっている要素の知覚とそれらの働きの感受 	○	○	○	

	4 わが国及び世界の歌唱について ・ 曲種に応じた発声の違い ・ 伝統文化の理解	・ 様々な声による音楽に触れ、その違いを味わいながらそれぞれの文化を理解し、関心を高めることができる。		○		
2	5 器楽による表現 ・ クラシックギターの基礎（種類や名称、歴史） ・ クラシックギターの奏法 ・ 簡単なコードによる演奏 ・ 独奏による表現の工夫	・ クラシックギターに親しみ、基礎的な奏法を身につけるとともに、アルペッジョ奏法・ストローク奏法による簡単な演奏ができる。	○	○		授業態度 ワークシート 実技テスト 筆記テスト
	6 創作による表現 ・ いろいろな様式や演奏形態による楽曲の創作	・ 音階を選んで旋律をつくり、それに副旋律や和音を付けて、イメージをもって作曲をすることができる。	○	○	○	
	7 楽器の魅力について	・ 様々な楽器による音楽に触れ、その楽しさを味わいながら、その文化を理解し、関心を高めることができる。	○	○		
3	8 鑑賞 ・ 作曲家の人物像やその時代背景等 ・ 音楽の構造と美しさ ・ 音楽と社会や文化とのかかわり ・ 音楽と他芸術とのかかわり ・ オペラの魅力 ・ ミュージカルの魅力 ・ 世界の音楽 ・ 日本の伝統音楽	・ 音色の特徴や音楽を形づくっている要素、歴史的背景など音楽とかわる様々なことを通じて、楽曲の魅力を多方面から探り、感じることで、積極的、自発的に鑑賞する態度を養う。 ・ オペラやミュージカルに触れ、その楽しさを味わいながら、その文化を理解し、関心を高めることができる。 ・ 日本や郷土の伝統音楽それぞれの特徴を理解して鑑賞することができる。	○	○		授業態度 ワークシート 実技テスト 筆記テスト
			○	○	○	
			○	○		

科目	美術 I	単位	2	学年	1年(食物科・衛生看護科)
使用教科書	高校生の美術 I (日本文教出版)		副教材等		

学習の到達目標	<p>1 作品制作を主とした創造活動を通して、知識と理解にもとづく創造的表現技能を身に付けるようにする。</p> <p>2 制作の対象への創造的な表現を工夫したり、身近な物事との関わりを発見し、表現の幅や深さを増していけるようにする。</p> <p>3 美術と社会や生活との関わりを認識し、生涯にわたり美術と美術文化を愛好する心情を育むとともに感性を高め、心豊かな生き方を目指す態度を養う。</p>
---------	---

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術や美術文化と豊かに係わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組んでいる。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・色彩の学習 ・絵の具についての話 ・油彩画の技法の説明 ・油彩画実技 	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩についての理論や知識 ・絵の具の種類とその歴史 ・鉛筆の技法とアイデアスケッチ ・技法を体得しながら、色彩の学習と独自の構想とを組み合わせた油彩画を描く。 	○			授業態度 ワークシート 作品
2	<ul style="list-style-type: none"> ・立体とはなんだろう ・身近なものを見直す ・立体的に描く ・粘土による練習 ・彫刻の種類 ・実材による実技 	<ul style="list-style-type: none"> ・立体の定義と認識を身近な物事や資料を通して学習する。 ・粘土による造形をし、それをデッサンしてみるとともにアイデアを練る。 ・ポリスチレンフォームを材料とし、多様な彫刻技法を駆使して立体造形作品を作る。 	○			授業態度 ワークシート 作品
3	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインと美術 ・デザインと生活 ・生活に生かす美術 ・イラストレーション実技 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や歴史を例にとり、生活の中のデザインや美術を認識する。 ・ガラス絵やエンボス作りを通して表現的デザインを楽しむ。 	○			授業態度 ワークシート 作品

科目	書道 I	単位	2	学年	1年(食物科・衛生看護科)
使用教科書	書 I (教育図書)	副教材等			

学習の到達目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書のおよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	1 書道で学習すること ・南日本硬筆展出品	<ul style="list-style-type: none"> ・書道の三分野と、臨書・鑑賞・創作の学習方法を理解する。 ・小・中学校国語科書写と高等学校芸術科書道の学習の違いを理解する。 	○		○	授業態度 ワークシート 作品
	2 書写・書道の基本 ・書くときの姿勢 ・用具・用材と扱い方	<ul style="list-style-type: none"> ・書くときの姿勢や、基本的な筆の持ち方・構え方を身に付け、目的や場面に応じて適切に使い分ける必要があることを理解する。 ・用具・用材の種類や、それぞれの特性や用途、製法について理解する。 	○	○	○	
	3 篆刻 ・姓名印の制作	<ul style="list-style-type: none"> ・印の使い方や種類を理解する。 ・篆刻に必要な用具を理解する。 ・教科書を鑑賞し、構想や表現に生かす。 ・印面の構成について工夫し、姓名印を作成する。 	○		○	
	4 漢字の書 楷書 ・書体の変遷 ・楷書の基本 九成宮醴泉銘 孔子廟堂碑 顔氏家廟碑	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの書体の成立過程と、その歴史的背景、字形や線質の特徴を理解する。 ・楷書の古典の書体や書風と用筆、運筆と関わりについて理解する。 ・楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身に付ける。 	○		○	

	雁等聖教序	・楷書の古典の書のよさや美しさを味わい、用筆や字形を意識して臨書する。		○	○	
2	5 漢字の書 行書 蘭亭序 争坐位稿 風信帖 ・半紙展出品	・行書の成立過程や性質を再確認し、行書の特徴を理解する。 ・書聖・王羲之と「蘭亭序」の価値を理解し、その書風や文章の内容を理解する。 ・行書の特徴、筆脈・抑揚を意識して臨書する。	○			授業態度 ワークシート 作品
	6 漢字仮名交じりの書 ・文化祭展示作品	・漢字仮名交じりの書の作例を鑑賞し、漢字と仮名の調和や自由な紙面構成などの表現の特徴を確認する。 ・書く言葉を決め、意図に応じた表現を工夫する。 ・用具・用材を工夫し、色紙に創作する。 ・作品鑑賞を行い、学習の成果を交流する。	○	○		
	7 刻字 ・文化祭展示作品	・刻字に必要な用具や使い方を理解する。 ・原稿の作成や彩色までの手順を理解し、意図に応じた作品の構成を工夫する。 ・陰刻か陽刻かを選び、刻字に取り組む。 ・作品鑑賞を行い、学習の成果を交流する。	○	○	○	
	8 文字の造形を学ぶ 真草千字文 曹全碑 泰山刻石	・草書・隸書・篆書の成立過程を再確認する。 ・「真草千字文」「曹全碑」「泰山刻石」が作られた経緯や書風について確認し、それぞれの書体の点画や線質の特徴を理解する。	○	○	○	
3	9 仮名の書 ・仮名の書の成立 蓬萊切 高野切第三種 創作	・漢字の伝来から仮名の成立に至る過程で段階的に発生した仮名の種類を理解する。 ・平仮名、片仮名、変体仮名の成立と字源について理解する。 ・仮名の基本的な用筆・運筆を理解し、習得する。 ・仮名の古筆を鑑賞し、連綿を意識して臨書する。 ・散らし書きなどの、構成方法について理解する。 ・書きたい俳句を選び、三角法構成を基本とした全体構成を考える。 ・短冊・懐紙に書いた作品を鑑賞し、交流する。	○	○	○	授業態度 ワークシート 作品

科目	英語コミュニケーション I	単位	3	学年	1
使用教科書	『Revised Amity English Communication I』 (開隆堂出版)	副教材等		『Revised Amity English Communication I』 ワークブック (開隆堂出版)	

学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・日常的, 社会的な話題について, 必要な情報を聞き取り, 話し手や聞き手の意図を把握し, 概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 ・日常的, 社会的な話題について, 聞いたり読んだりしたことを基に, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができる。 ・日常的, 社会的な話題について, 聞いたり読んだりしたことを基に, 基本的な語句や文を用いて, 情報や考え, 気持ちなどを論理性に注意して話したり, 文章を書いて伝えたりすることができる。

	a 知識・技能	b 思考力・判断力・表現力	c 主体的に学習に取り組む態度
観 点	英語のさまざまな語彙, 表現の意味, 働きを理解し, 日常生活において, 状況に適した表現を用いて意思の疎通ができる知識・技能を身に付けている。	英語のさまざまな語彙, 表現の意味, 働きを活用し, 会話の概要や要点を捉え, 適切な意思表現ができる。	英語のさまざまな語彙, 表現の意味, 働きを理解し, 考えや気持ちを積極的に伝え, 相手の発言の概要や要点を理解しようとしている。
規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・情報や考えを述べるために必要な語彙や表現, 音声等を理解している。 ・日常生活の話題についての情報や考えを, 話して伝える技能を身につけている。 	日常生活のさまざまな場面において, 相手の情報や考えを理解しながら, 自分の情報や考えをよく理解してもらえるように, 時には理由とともに伝えて話している。	日常生活のさまざまな場面において, 相手の情報や考えを理解しながら, 自分の情報や考えをよく理解してもらえるように工夫している。また, 必要があれば改善するなど, 粘り強く取り組んでいる。

評価の観点と規準

年間の学習計画

学 期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	■ GET READY 1~4	【数字, 文字, 品詞】				授業態度 発問評価 予習チェック ワークシート ペアワーク グループワーク パフォーマンス テスト 小テスト ノート・ファイル 提出 定期考査
	■ 1 The Beautiful Scenery 「聞くこと」「読むこと」 「話すこと(やり取り)」 「話すこと(発表)」「書くこと」	【be 動詞・一般動詞の現在形】 お気に入りの場所についてやり取りし, 発表する。 ・be 動詞・一般動詞の現在形を理解し, 概要や要点を捉え, 活用できる。	○	○	○	
	■ 2 My Best Friend 「聞くこと」「読むこと」 「話すこと(やり取り)」 「話すこと(発表)」「書くこと」	【be 動詞・一般動詞の過去形】 大切にしている人について発表する。 ・be 動詞・一般動詞の過去形を理解し, 概要や要点を捉え, 活用できる。	○	○	○	
	■ 3 Love for Dance 「聞くこと」「読むこと」 「話すこと(やり取り)」 「話すこと(発表)」「書くこと」	【進行形/助動詞】 コンピュータの使い方や得意なことについてやり取りし, 発表する。 ・進行形や助動詞を理解し, 概要や要点を捉え, 活用できる。	○	○	○	
	■ FOCUS+ 1	【be 動詞/一般動詞/進行形/助動詞】				

	「読むこと」 「話すこと(やり取り)」	好きなスポーツ選手や好きな有名人についてやり取りし、自己紹介などをする。				
	■4 The Capsule Toys 「聞くこと」「読むこと」 「話すこと(やり取り)」 「話すこと(発表)」「書くこと」	【不定詞】 海外でしてみたいことなどについてやり取りしたり、ほしいカプセルトイについてまとめて発表する。 ・不定詞を理解し、概要や要点を捉え、活用できる。	○	○	○	
2	■5 The History of Chocolate 「聞くこと」「読むこと」 「話すこと(やり取り)」 「話すこと(発表)」「書くこと」	【動名詞】 健康や空いた時間についてやり取りし、写真を参考にし、自分の考えを発表する。 ・動名詞を理解し、概要や要点を捉え、活用できる。	○	○	○	授業態度 発問評価 予習チェック ワークシート ペアワーク
	■6 A Dog Trainer 「聞くこと」「読むこと」 「話すこと(やり取り)」 「話すこと(発表)」「書くこと」	【比較(原級・比較級・最上級)】 好きな教科や描かれたイラストについてやり取りしたり、子どもの頃から好きなことについてまとめて発表したりする。 ・比較を理解し、概要や要点を捉え、活用できる。	○	○	○	グループワーク パフォーマンス テスト 小テスト
	■ FOCUS+ 2 「読むこと」 「話すこと(やり取り)」	【不定詞/動名詞/比較】 好きな音楽や日常生活で楽しんでいることなどについてやり取りする。				ノート・ファイル 提出
	■ COMMUNICATE+ 1 「話すこと(やり取り)」	【買物をする】 ・買物の表現を理解し、活用できる。	○	○	○	定期考査 基礎学力診断 テスト
	■ 7 Serendipity 「聞くこと」「読むこと」 「話すこと(やり取り)」 「話すこと(発表)」「書くこと」	【現在完了】 相手の生活面や経験などについてやり取りし、セレンディピティについて発表する。 ・現在完了を理解し、概要や要点を捉え、活用できる。	○	○	○	
	■ 8 Sapeurs 「聞くこと」「読むこと」 「話すこと(やり取り)」 「話すこと(発表)」「書くこと」	【受動態】 服装や平和のシンボルについてやり取りし、大切なものについて発表する。 ・受動態を理解し、概要や要点を捉え、活用できる。	○	○	○	
3	■ 9 Is Santa Real? 「聞くこと」「読むこと」 「話すこと(やり取り)」 「話すこと(発表)」「書くこと」	【分詞の形容詞的用法】 おすすめの映画についてやり取りし、将来挑戦したいことについて発表する。 ・分詞の形容詞的用法を理解し、概要や要点を捉え、活用できる。	○	○	○	授業態度 発問評価 予習チェック ワークシート ペアワーク
	■ 10 Clean Water 「聞くこと」「読むこと」 「話すこと(やり取り)」 「話すこと(発表)」「書くこと」	【関係代名詞】 お気に入りの曲などについてやり取りしたり、開発途上国への支援について賛成・反対の立場で発表する。 ・関係代名詞を理解し、概要や要点を捉え、活用できる。	○	○	○	グループワーク パフォーマンス テスト 小テスト
	■ FOCUS+ 3 「聞くこと」「読むこと」 「話すこと(やり取り)」 「話すこと(発表)」「書くこと」	【現在完了/受動態/分詞/関係代名詞/関係副詞/仮定法】 メールの内容やお気に入りの写真について発表し、「どこでもドアがもしあったら」というテーマでやり取りする。				ノート・ファイル 提出
	■ COMMUNICATE+ 2 「話すこと(やり取り)」	【道案内をする】 ・道案内の表現を理解し、やり取りする技能を身に付けている。	○	○	○	課題考査 定期考査
	■ tupera tupera 「読むこと」	【絵本を読む】 ・さまざまな語彙や表現を理解し、概要や要点を読みとることができる。	○	○	○	

科目	家庭総合	単位	4単位	学年	1年生
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)		副教材等	ニュービジュアル家庭科・資料+成分表(実教出版), 家庭総合学習ノート(東京書籍)	

学習の到達目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけ、生涯を見通して課題を解決する力を養い、自分や家族、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家族、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法	
1	家庭科の学び方	・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	○	○	○	ワークシート	
	第1章 生涯を見通す 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。	○	○	○	・ワークシート ・学習ノート ・単元テスト	
	第2章 人生を作る 1 人生を作る 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会	・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 ・よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。 ・社会制度としての家族や家族と法律を理解する。 ・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結び付きについて理解し、どのような社会を実現すればよいか、考えて実践しようとする。	○	○	○	・ワークシート ・学習ノート ・提出課題 ・単元テスト	
	第3章 子どもと共に育つ 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境	・命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。 ・子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。 ・子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもとの触れ合いや、親と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。 ・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解し、子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいか、考えて実践しようとする。	○	○	○	・ワークシート ・学習ノート ・単元テスト	
	第4章 超高齢社会を共に生きる 1 超高齢・大衆長寿社会の到来 2 高齢期の心身の特徴 3 高齢者の自立を支える 4 これからの超高齢社会	・超高齢社会の背景を理解し、高齢者が生きがいを持って生活するために、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。 ・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解する。 ・高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。 ・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。 ・これからの超高齢社会の課題を理解し、自分自身の高齢期をよりよく生きられるようにするとともに、地域社会の一員として高齢者との関わり方を考えて実践しようとする。	○	○	○	・ワークシート ・学習ノート ・単元テスト	
	第5章 共に生き、共に支える 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる	・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 ・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の支援体制について理解する。 ・共に暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていけばよいか、考えて実践しようとする。	○	○	○	・ワークシート ・学習ノート ・単元テスト	
	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。	○	○	○	課題レポート	
	2	第6章 食生活をつくる	・食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化等を理解する。	○	○	○	・ワークシート

	1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食事 3 食品の選択と安全 4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎 6 食生活の文化と知恵 7 これからの食生活	・健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。 ・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みについて理解する。 ・食生活を計画・管理できるようになるために、各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、「健康によい、栄養バランスのよい食事」とはどのようなものかを理解する。 ・調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に理解し、調理の知識と技術を身につけ、配膳やマナーに関心を持つ。 ・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認し、世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。 ・持続可能な食生活にすることができるよう、安全・環境・健康などの情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・学習ノート ・実験・実習レポート ・単元テスト
	第7章 衣生活をつくる 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 被服を作る 5 衣生活の文化と知恵 6 これからの衣生活	・被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・用途に合った着装ができるようになるために、被服の役割を理解する。 ・被服に施されている工夫について理解する。 ・被服の材料や性能、加工について理解し、被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考える力を身につける。 ・被服を長く着用することができるよう、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解し、環境に配慮した衣生活について考える。 ・被服の機能、素材と管理の知識を応用しながら、目的に合った被服を製作するために、被服が身体の形に合わせてどのように構成されているかを理解する。 ・日本の衣生活の変遷や日本の衣文化の知恵や技術について知り、和服や世界の民族衣装について理解する。 ・これからの衣生活の在り方を考えるために、自分の衣生活を見直す。また、全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの被服について理解を深める。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・ワークシート ・学習ノート ・実験・実習レポート ・単元テスト
	第8章 住生活をつくる 1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活	・生涯を見通した住生活について考え、毎日の生活を支え生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 ・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照などの環境性能や、健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。 ・気候や風土の違い、時代の変化によって大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。 ・持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、環境に配慮した住生活について理解する。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	・ワークシート ・学習ノート ・実験・実習レポート ・単元テスト
3	第9章 経済生活を営む 1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 4 生涯の経済生活を見通す 5 家計をマネジメントする 6 これからの経済生活	・自立した責任ある消費者として意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 ・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。 ・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・消費者問題を予防し対応できるように、消費者保護制度について理解する。 ・消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。 ・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。 ・家計をマネジメントする力をつけるため、家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解する。 ・どうすれば持続可能な経済成長が実現できるか考えて実践しようとする。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・ワークシート ・学習ノート ・実験・実習レポート ・単元テスト
	第10章 持続可能な生活を営む 1 持続可能な社会を目指して 2 一人一人後からで社会を動かす	・持続可能なライフスタイルの実現に向けて、身近な生活と環境との関わりについて理解する。 ・持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 ・一人の主体者として、社会全体をよりよい方向に動かしていこうとする。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	・ワークシート ・学習ノート ・単元テスト
	第11章 これからの生活を創造する 1 生活をデザインする	・各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。 ・これから持続可能な社会を構築していくために、何ができるか考えて実践しようとする。	○ ○	○ ○	○ ○	・ワークシート ・レポート

科目	生活産業基礎	単位	2	学年	生活文化科・食物科 1年
使用教科書	生活産業基礎(実教出版)		副教材等		

学習の到達目標	衣食住、ヒューマンサービスなどに関する生活産業や関連する職業についての関心を高め、必要な知識と技術を進んで習得し、活用しようとする意欲と態度を育てる。
---------	---

評価の観点		
a.知識・技能	b.思考・判断・表現	c.主体的に学習に取り組む態度
生活産業や関連する職業について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	生活産業や関連する職業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	生活産業や関連する職業への関心を高め、適切な進路選択と専門性の向上を目指して自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に実践しようとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	1章 「生活産業基礎」を学ぶ ア 私たちの生活と「生活産業」 イ 「生活産業」のスペシャリストになるために	・私たちの生活と、産業との関わりについて理解し、「生活産業」のスペシャリストになるために必要な資質や知識、技術について理解し、専門科目の学び方について理解する。	○	○	○	ワークシート
	2章 生活に対応した商品・サービスの提供 ア 消費者ニーズの把握 イ 商品・サービスの企画・開発及び販売・提供 ウ 関連法規	・消費者の多様なニーズをとらえる調査方法や結果を商品開発に活用する方法を理解する。 ・商品・サービスの企画、開発から生産、販売・提供に結びつけていく仕組みについて理解する。 ・商品・サービスの販売・提供に関連する法規について理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査 単元テスト 夏休み課題
	3章 食生活関連分野の産業と職業 ア 食生活の変化と生活産業のかかわり イ 食生活関連産業の職業と資格	・病院などの給食やレストランなどの外食産業、弁当や惣菜などの中食産業、食品流通業などについて、意義と役割を理解する。 ・人々の食に対する意識や価値観が多様化していることや外食の機会の増加など、食生活が変化している実態について理解する。 ・外食産業、中食産業における、消費者のニーズや消費行動に対応した商品開発、メニュー開発、調理などの方式、販売やサービスの方法などについて理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査 単元テスト 課題レポート
2	4章 衣生活関連分野の産業と職業 ア 衣生活の変化と生活産業のかかわり イ 衣生活関連産業の職業と資格	・アパレル産業やファッション小売り産業について、意義と役割を理解する。 ・ファッションがライフスタイル全般を提案するようになっている状況を具体的な事例を通して理解する。 ・ファッションに関する様々な職業や資格について理解する。	○	○	○	ワークシート 課題レポート
	5章 住生活関連分野の産業と職業 ア 住生活の変化と生活産業のかかわり イ 住生活関連産業の職業と資格	・住宅販売やインテリアやリフォームに関わる産業について、意義と役割を理解する。 ・人々がライフスタイル、価値観、感性に合った住居を求めている状況を、具体的な事例を通して理解する。 ・ライフステージに合わせた住居のリフォームが増加していることなどの状況について理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査 単元テスト 課題レポート
3	6章 ヒューマンサービス関連分野 ア 社会の変化とヒューマンサービス イ ヒューマンサービス関連産業の職業と資格	・高齢者サービス、保育所や児童福祉サービス等、ヒューマンサービス関連分野の需要が高まっていることを認識し、それらの産業について意義や役割について理解する。 ・生活産業の職業人に求められる資質・能力について理解する。 ・専門科目の学習を通して生活産業に必要な資質、能力、知識と技術が身に付くことについて理解する。 ・法令を遵守することはもとより、サービスの提供には、より高度な責任が伴うことについて理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査 単元テスト 課題レポート
	7章 職業生活と自己実現 ア 職業生活と生きがいイ 将来の生活と学業	・生活産業のスペシャリストとして働くことが自己実現につながることを理解する。 ・希望する職業に就くためには学習計画を立てて学習することが重要であることを理解し、自己の進路実現に向けて学習計画を立案する。	○	○	○	ワークシート 定期考査 単元テスト 課題レポート

科目	生活産業情報	単位	2単位	学年	1学年
使用教科書	生活産業情報 (実教出版)	副教材等	日本語ワープロ検定試験模擬問題集3・4級編 文書デザイン検定試験模擬問題集3・4級編		

学習の到達目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、生活産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
---------	---

評価の観点		
a.知識・技能	b.思考・判断・表現	c.主体的に学習に取り組む態度
生活産業の各分野における情報の意義や役割、情報及び情報技術を活用する方法について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	生活産業に関する課題を情報及び情報技術を活用して発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	生活産業における情報及び情報技術の活用や専門性の向上を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	生活産業情報を学ぶにあたってのオリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 学習の意義や内容、学習方法や評価の方法、校内の機器の利用における注意事項を理解する。 				
	(1) 情報化の進展と生活産業 ア 情報化の進展と社会 イ 生活産業における情報化の進展	<ul style="list-style-type: none"> 情報化の進展が、社会や人々の生活に果たす役割や及ぼす影響、生活産業におけるコンピュータ等の情報機器や情報通信ネットワークの役割や利用状況について理解する。 情報化の進展が、社会や人々の生活や生活産業に及ぼす影響について課題を発見し、その解決に向けて考察する。 情報化の進展と生活産業について自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 小テスト 定期考査 実技テスト
	(2) 各種アプリケーションの基本操作① ア 文書作成ソフトの利用	<ul style="list-style-type: none"> 文書作成ソフトの機能を理解し、操作方法を習得する。 例題に沿って課題を作成するよう自ら取り組んでいる。 	○		○	
2	(3) 情報モラルとセキュリティ ア 情報モラル イ 情報通信ネットワークのしくみとセキュリティ管理	<ul style="list-style-type: none"> 情報に関連する法規等の概要、情報モラル、情報通信ネットワークの仕組み及びセキュリティ管理の方法や重要性について理解するとともに情報通信ネットワークに関連する技術を身に付ける。 情報モラルやセキュリティ管理に関する課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 情報モラルとセキュリティについて自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 小テスト 定期考査 実技テスト
	(4) 各種アプリケーションの基本操作② ア プレゼンテーションソフトの利用 イ 画像処理ソフトの利用	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションソフトの機能を理解し、操作方法を習得する。 画像処理ソフトの機能を理解し、操作方法を習得する。 例題に沿って課題を作成するよう自ら取り組んでいる。 	○		○	
3	(4) 生活産業に関連した情報デザイン ア 衣生活分野での利用	<ul style="list-style-type: none"> テーマに沿って必要な情報を収集し、アプリケーションを効果的に利用することができる。 すべての人に情報が伝わるためにはどのように表現すべきか、どのような工夫が必要かを考察する。 積極的に課題に取り組んでいる。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 定期考査 レポート

科目	保育基礎	単位	2 単位	学年	1 学年
使用教科書	保育基礎（実教出版）		副教材等	折り紙の手引き （家庭科教育振興会）	

学習の到達目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。
---------	--

評価の観点		
a.知識・技能	b.思考・判断・表現	c.主体的に学習に取り組む態度
保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	(1) 子どもの保育 ア 保育の意義 イ 保育の方法 ウ 保育の環境	<ul style="list-style-type: none"> 保育の意義と方法、保育環境の特徴と役割について理解する。 子どもの心身の状態や発達に応じた保育の方法とその環境について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 子どもの保育の方法や保育の環境について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む。 	○	○	○	授業態度 提出課題 ワークシート 単元テスト ノート提出 読み聞かせ 実技テスト 歌唱テスト
	(2) 子どもの発達 ア 子供の発達の特性 イ 乳幼児の発達 ウ 幼児期の発達	<ul style="list-style-type: none"> 生涯発達における乳幼児期について、基本的な発達の特性と心身の様々な機能の発達を発達時期ごとの子どもの姿を通して理解する。 乳幼児期の子どもの健全な心身の発達について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 子どもの発達について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む。 	○	○	○	
2	(3) 子どもの生活と養護 ア 乳幼児期の生活の特徴と養護 イ 生活習慣の形成 ウ 健康管理と事故防止	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの生活と養護について理解し、適切な生活習慣の形成や健康と安全管理に関する保育の技術を身に付ける。 子どもの生活と適切な養護について、課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 子どもの生活と養護について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む。 	○	○	○	授業態度 提出課題 ワークシート 単元テスト ノート提出
	(4) 子どもの福祉 ア 児童観の変遷 イ 児童福祉の理念と関係法規・制度 ウ 子どもの福祉を支える場	<ul style="list-style-type: none"> 児童観の変遷や児童福祉の理念と制度について理解する。 子どもの福祉を支える場の役割について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 子どもの福祉について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む。 	○	○	○	乳児の世話 実技テスト 折紙実技テスト
3	(5) 子どもの文化 ア 子どもの文化の意義 イ 子どもの遊びと表現活動 ウ 子どもの文化を支える場	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの文化、遊びと表現活動について理解し、関連する技術を身に付ける。 子どもの健やかな発達を促す遊びや表現活動について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 子どもの文化について自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む。 	○	○	○	授業態度 提出課題 ノート提出 単元テスト 鹿島こども園との交流会企画運営

科目	ファッション造形基礎	単位	2単位	学年	1学年
使用教科書	ファッション造形基礎(実教出版)		副教材等	家庭科問題集被服編(全国高等学校家庭科教育振興会)	

学習の到達目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ファッションの造形を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
---------	--

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
被服の構成, 被服材料の種類や特徴, 被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに, 関連する技術を身に付けている。	被服製作やデザインに関する課題を発見し, ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	衣生活の充実向上を目指して自ら学び, ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	3 洋服の製作 カ 縫製の基礎 (手縫い・ミシン縫い)	① 洋服製作の基礎について理解し, 関連する技術を身に付ける。 ・基礎縫いの練習用布を用い繰り返し練習をして技術習得する。 ・ミシンを使って巾着を製作することができる。	○		○	定期考査 小テスト 実技テスト 基礎縫い用布 ティッシュケース
	2 衣服の素材 ア 衣服材料の特徴と性能 イ 用途に応じた被服材料の選択	(2) 被服材料 ① 被服材料の種類と特徴について, 実習を通して科学的に理解し, 関連する技術を身に付ける。 ② 製作する被服の用途に適した被服材料の性能について課題を発見し, その解決に向けて考察し, 工夫すること。 ③ 被服材料について自ら学び, ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組むこと。	○	○	○	
	1 衣服の構成 ア 人体と衣服 イ 立体構成衣服と平面構成衣服	(1) 被服の構成 ① 人体構造と被服の関係性, 被服の構成による特徴の違いなどを理解する。 ② 被服の構成方法による相違や動作とゆりみの関係性について課題を発見し, その解決に向けて考察し, 工夫する。 ③ 被服の構成について自ら学び, ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む。	○		○	
2	3 洋服製作の基礎 ア 採寸 イ 型紙の基本 ウ デザインと材料の選択 エ 裁断 オ 仮縫いと補正 カ 縫製 キ 仕上げ ク 着装	(3) 洋服製作の基礎 ① 洋服製作の基礎について理解し, 関連する技術を身に付ける。 ・人体の構造や機能, 寸法や体型と被服のかかわりについて学び, 立体構成と平面構成の特徴について理解する。 ② 洋服製作に関する課題を発見し, その解決に向けて考察し, 工夫する。 ・ショートパンツ製作をとおして, 洋服製作に関する基礎的・基本的な理論と技術を学び, 計画的に洋服の製作ができる。 ・布地や作品に応じた適切な仕上げができる。	○	○	○	定期考査 小テスト 実技テスト アウターパンツ
		・スカートの製作をとおして, 洋服製作に関する基礎的・基本的な理論と技術を学び, 計画的に洋服の製作ができる。 ・自らデザインを考え, スカートの製作の課題を発見し, 合理的に解決する力を身に付ける。 ③ 洋服製作の基礎について自ら学び, ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む。	○	○	○	
3	2 洋服の製作 ウ デザイン	① 洋服製作の基礎について理解し, 関連する技術を身に付ける。 ・ファッションデザイン画の基礎を身につけ, デザイン画の役割を理解する。	○		○	定期考査 小テスト 実技テスト スカート レポート デザイン画

科目	家庭基礎	単位	2単位	学年	食物科 1年
使用教科書	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)		副教材等	カラーグラフ食品成分表(実教出版)	

学習の到達目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
---------	--

評価の観点		
a.知識・技能	b.思考・判断・表現	c.主体的に学習に取り組む態度
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	家庭の学び方	・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	○	○	○	ワークシート
	第1章 生涯を見通す 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	・自立した生活を営むために、生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を描く。	○	○	○	ワークシート 定期考査
	2章 人生をつくる 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる	・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように、さまざまな生き方について理解する。 ・よりよい家庭生活を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結び付きを理解する。 ・社会制度としての家族や家族と法律を理解する。 ・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査
	3 これからの家庭生活と社会	・誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるにはどのような社会を実現すればよいか、考えて実践しようとする。	○	○	○	
	第3章 子どもと共に育つ 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ	・命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。 ・子どもの発達に応じて適切に関われるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。 ・子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。 ・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査 実習の作品

	5 これからの保育環境	・子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいか、考えて実践しようとする。	○	○	○	
	ホームプロジェクトと家庭クラブ活動	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。	○	○	○	課題レポート ホームプロジェクト発表
2	第6章 食生活をつくる					
	1 食生活の課題について考える	・よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。	○		○	ワークシート 定期考査 実習の作品 実習の記録
	2 食事と栄養・食品	・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。	○	○	○	
	3 食生活の選択と安全	・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。	○	○	○	
	4 生涯の健康を見通した食事計画	・自分と家族の食生活を計画・管理できるようになるために、各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、「健康により、栄養バランスのよい食事」とはどのようなものかを理解する。	○	○	○	
	5 調理の基礎	・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。また配膳やマナーに関心を持つ。	○		○	
	6 食生活の文化と知恵	・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。 ・世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。			○	○
7 これからの食生活	・自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。			○	○	
	第7章 衣生活をつくる					
	1 被服の役割を考える	・私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・用途に合った着装を実践できる力を身につけるために、社会生活を営むうえでの被服の役割を理解する。 ・健康・快適・安全な生活を送るために被服に施されている工夫について理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査 実習の作品
	2 被服を入手する	・被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身につけるために、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。” ・手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう、管理や手入れの工夫について理解する。	○		○	
	3 被服を管理する	・環境に配慮した衣生活について考え、実践できる力を身につけるために、被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。	○		○	
	4 衣生活の文化と知恵	・現代に受け継がれる日本の衣文化の工夫を受け継ぐために、日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。			○	○
	5 これからの衣生活	・次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。 ・全ての人が健康・安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの被服について理解を深める。	○	○	○	
	第8章 住生活をつくる					
	1 住生活の変遷と住居の機能	・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支え生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査 実習の作品
			○	○	○	

	2 安全で快適な住生活の計画	・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。		○	○	
	3 住生活の文化と知恵	・日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって、大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。		○	○	
	4 これからの住生活	・持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。				
	第9章 経済生活を営む					
	1 情報の収集・比較と意思決定	・毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査
	2 購入・支払いのルールと方法	・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。	○		○	
	3 消費者の権利と責任	・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。 ・消費者の権利と責任の変遷を踏まえて、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。	○	○	○	
	4 生涯の経済生活を見通す	・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。	○	○	○	
	5 これからの経済生活	・大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。	○	○	○	
	第10章 持続可能な生活を営む					
	1 持続可能な社会を目指して	・どうすれば持続可能な経済成長が実現できるか考えて実践しようとする。” ・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。	○	○	○	ワークシート 定期考査
3	第4章 超高齢社会を生きる					
	1 超高齢・大衆長寿社会の到来	・超高齢社会の背景を理解する。 ・高齢者が生きがいを持って生活するためには、家族や地域によるどのような支援が必要か、考える。	○		○	ワークシート 定期考査 レポート
	2 高齢者の心身の特徴	・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深める。	○		○	
	3 これからの超高齢社会	・高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。 ・高齢者の自立を支えるために私たちにできる適切な支援の方法や関わり方を考える。	○	○	○	
	第5章 共に生き、共に支える					
	1 私たちの生活と福祉	・誰もが生涯を通して自分の力を生かし、必要に応じて援助を得ながら安心して暮らせる社会に向けて、家族・家庭生活を支える福祉について理解する。	○		○	ワークシート 定期考査 レポート
	2 社会保障の考え方	・共に支え合う社会の実現に向けて、国・地方公共団体の制度などの支援体制、支え合いの構造について理解する。	○		○	
	3 共に生きる	・私たちが多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていけばよいか、考えて実践しようとする。	○	○	○	
	第11章 これからの生活を創造する	・人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。	○	○	○	ワークシート

科目	調理	単位	5単位(理論2)(実習3)	学年	1年
使用教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・調理理論と食文化概論(新調理師養成教育全書 4) ・調理実習(新調理師養成教育全書5) ・総合調理実習(新調理師養成教育全書6) 				
副教材等	・オールガイド食品成分表 ・実習プリント				

学習の到達目標	様式別調理に関する知識と基礎技術を習得させ、健康の維持・増進に寄与する食生活の充実向上を図るとともに、創造的に調理する能力と態度を育てる。
---------	---

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
<p>調理理論、調理実習に関する知識を実技と関わりを持ちながら理解している。</p> <p>毎回の実習を計画的に実行する。</p> <p>個人実習においては与えられた課題を確実に習得している。</p> <p>調理師に必要な基本的な技術を身につけている。</p>	<p>調理師としての礼儀及び衛生観念を理解し、実行する。</p> <p>材料計算、発注が適切にできている。</p> <p>材料の検収と、その結果に基づく対応が適切にできている。</p> <p>料理にあった材料の切り方を学び、調理師として必要な判断を養う。</p>	<p>授業態度が真面目で熱心である。</p> <p>常に意欲的に実習に参加している。</p> <p>実習時の衛生面への心構えが身に付いている。(作業衣等の準備、爪など)</p> <p>実習ノートが提出されている。</p> <p>実習時の準備片付けや集団給食実習の係分担、文化祭などにおいて自分の責任を果たしている。</p>

年間の学習計画 (理論)

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	[1] 調理を行う前に 1 調理実習の心得 [2] 調理とおいしさ 1 調理とは 2 おいしさの構成 [3] 調理の基本操作 1 非加熱調理操作 2 加熱調理操作 中国料理テーブルマナー	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生的な服装や身だしなみの整え方、実習室の使用方法や清掃方法等について学ぶ。 ・調理の目的について、食品、栄養、安全、嗜好の面から理解させ、調理を科学的にとらえ、調理技術の向上・発展を図る態度を育てる。 ・調理法の種類と特徴について理解し、操作上の留意点を考慮した適切な取り扱いを身に付ける。 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物 ・出席 ・平常点
2	[4] 調理設備・器具と熱源 1 調理設備・設備とは 2 調理器具 第2章 集団調理実習 [1] 集団調理実習にあたって [2] 集団調理実習の進め方 [3] 大量調理の特徴と調理技術	<ul style="list-style-type: none"> ・調理施設 ・設備の構造の条件、調理器具の種類と特徴、調理システムについて理解する。 ・集団調理の種類と特徴、集団調理に当たっての留意事項を理解し、献立作成と集団調理の技術を習得する。 ・集団調理の組織と運営、食品の保管、調理作業管理、衛生管理などについて要点を理解し、調理師として集団調理を自覚と責任を持ち、担当できる能力を養う。 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物 ・出席 ・平常点
3	3 食器・容器 4 調理と熱源	<ul style="list-style-type: none"> ・調理に使われる熱源の特徴について理解し、調理機器の原理及び基本構造を知り、適切な取り扱いを身につける。 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・提出物 ・出席 ・平常点

年間の学習計画（実習）

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> 調理技術の基礎基本を習得 食物調理技術検定3級程度の知識, 技術を習得 様式別の日常食の実習 礼儀及び衛生観念 包丁の手入れ 箸の使い方 基本料理の技術習得 	【個人実習】 <ul style="list-style-type: none"> 基礎的な切り方や計量, 調理器具の取り扱いなど, 調理の知識・技術の定着を図る。 あいさつ, 身だしなみ, 手洗い 包丁の手入れを習得する。 箸の持ち方, 使い方を身につける。 基本的な食材の切り方を身につける。 食物検定3級・全調協実技検定(グレード1) 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 実技テスト 定期考査 提出物 出席 平常点
2	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭食物バザー献立 様式別の日常食の実習 基本料理の技術習得 様式別の日常食の実習 	【班別実習】 <ul style="list-style-type: none"> 文化祭食物バザーの売品研究を通して, 売品としての調理の特徴や注意点について理解し, 価格にふさわしい安全な料理を提供する。 基礎的な調理の知識・技術の定着を図る。 【個人実習】 <ul style="list-style-type: none"> 基本的な食材の切り方を身につける。 全調協実技検定(グレード1) 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 実技テスト 定期考査 提出物 出席 平常点
3	<ul style="list-style-type: none"> 基本料理の技術習得 様式別の日常食の実習 	【班別・個人実習】 <ul style="list-style-type: none"> やや高度な調理操作を用いた日常食の学習を通して, 基本的な調理技術の定着を図る。 基本的な食材の切り方を身につける。 全調協実技検定(グレード1) 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 実技テスト 定期考査 提出物 出席 平常点

科目	栄養	単位	1	学年	食物科 1年
使用教科書	新 調理師養成教育全書 必修編2 食品と栄養の特性(全国調理師養成施設協会)		副教材等	カラーグラフ成分表(実教出版)	

学習の到達目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、栄養面で健康の保持増進を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
---------	--

評価の観点		
a,知識・技能	b,思考・判断・表現	c,主体的に学習に取り組む態度
栄養素の機能と代謝、各ライフステージにおける栄、労働・スポーツと栄養などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技能を身に付けている。	食生活の現状から栄養に関する課題を発見し、栄養面で健康の保持増進を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	栄養状態の改善の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、健康の保持増進に主体的かつ協働的に実践しようとしている。

学期	学習項目	学習内容および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	第1章 栄養の機能と健康 (1) 栄養と健康	・栄養の概念と栄養素の種類・機能について理解する。 ・人体の構成成分の組成について理解するとともに、栄養素との関わりについて理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査 課題プリント
	(2) 炭水化物	・炭水化物の種類と生理機能、栄養について理解する。				
2	(3) 脂質	・脂質の種類と生理機能、栄養について理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査 課題プリント
	(4) たんぱく質	・たんぱく質の種類と生理機能、栄養について理解する。				
	(5) ビタミン	・ビタミンの種類と生理機能、栄養について理解する。				
3	(6) ミネラル (7) その他	・ミネラルの種類と生理機能、栄養について理解する。 ・水分、機能性成分の生理機能、作用について理解する。	○	○	○	ワークシート 定期考査 課題プリント

入学年度			令和8年度入学生						備考
学年			1	2		3		計	
教科	科目	標準単位		服飾文化 類型	保育教養 類型	服飾文化 類型	保育教養 類型	服飾文化 類型	保育教養 類型
各学科に共通する各教科・科目	国語	現代の国語	◎2	2				2	
		言語文化	◎2	2				2	
		文学国語	4		2		2	4	
	地理歴史	地理総合	◎2				2	2	
		歴史総合	◎2		2			2	
	公民	公共	◎2	2				2	
	数学	数学Ⅰ	◎3	3					3
		数学A	2		2			2	
		数学B	2				2	2	
	理科	科学と人間生活	◎2	2					2
		化学基礎	2				2	2	
		生物基礎	◎2		2			2	
	保健体育	体育	◎7~8	2	2		3	7	
		保健	◎2	1	1			2	
	芸術	音楽Ⅰ	○2		ㄗ			ㄗ	「芸術Ⅰ」を履修後に同科目のⅡを履修する
		音楽Ⅱ	2				ㄗ	ㄗ	
		美術Ⅰ	○2		2			2	
		美術Ⅱ	2				2	2	
		書道Ⅰ	○2		┘			┘	
		書道Ⅱ	2				┘	┘	
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	◎3	3					3
英語コミュニケーションⅡ		4		4		2	6		
家庭	家庭総合	◎4	4				4		
情報	情報Ⅰ	2						「情報Ⅰ」2単位は「生活産業情報」で代替	
科目単位数計			21	17	15	53			
教科	科目	標準単位							
主として専門学科において開設される各教科・科目	家庭	生活産業基礎	◇2	2				2	
		課題研究	◎◇2~4			1	2	3	
		生活産業情報	◎2~4	2	3			5	
		消費生活	2~4				2	2	
		保育基礎	2~6	2				2	2
		保育実践	2~8				8		8
		ファッション造形基礎	2~6	2	4			6	2
		ファッション造形	4~10				8		8
		服飾手芸	2~4		2			2	
		フードデザイン	2~6			2		2	
		*生活文化	2~6				2	2	*は学校設定科目
		*保育演習	2~6			6		6	
科目単位数計			8	12	14	34			
総探	総合的な探究の時間	3~6						「総合的な探究の時間」は「課題研究」で代替	
合計			29	29	29	87			
特活	ホームルーム活動		1	1	1	3			
週当たり総時数			30	30	30	90			

入学年度			令和8年度入学生				備考	
学 年			1	2	3	計		
教 科	科 目	標準 単位						
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現代の国語	◎2	2			2	
		言語文化	◎2	2			2	
		文学国語	4		2	2	4	
	地理歴史	地理総合	◎2			2	2	
		歴史総合	◎2		2		2	
	公 民	公 共	◎2	2			2	
	数 学	数 学 I	◎3	3			3	
		数 学 A	2		2		2	
		数 学 B	2			2	2	
	理 科	科学と人間生活	◎2	2			2	
		化学基礎	2			2	2	
		生物基礎	◎2		2		2	
	保健体育	体 育	◎7~8	2	2	3	7	
		保 健	◎2	1			1	
	芸 術	音 楽 I	○2	㇀			㇀	
		美 術 I	○2	㇀2			㇀2	
		書 道 I	○2	㇀			㇀	
	外 国 語	英語コミュニケーション I	◎3	3			3	
		英語コミュニケーション II	4		2	4	6	
家 庭	家庭基礎	◎2	2			2		
情 報	情報I	2						
科目単位数計			21	12	15	48		
教科	科 目	標準 単位						
主 と し て 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	家 庭	生活産業基礎	◇2	2			2	
		課題研究	◎◇2~4			1	3	4
		生活産業情報	◎2~4			2		2
		食文化	1~2				1	1
		調理	14	5	5	4	14	
		栄養	3	1	1	1	3	
		食品	2		1	1	2	
		食品衛生	5		2	3	5	
		公衆衛生	◎3		2	1	3	
	総合調理実習	3		3		3		
科目単位数計			8	17	14	39		
総探	総合的な探究の時間	3~6						
合 計			29	29	29	87		
特活	ホームルーム活動		1	1	1	3		
週 当 たり 総 時 数			30	30	30	90		

「保健」1単位は「公衆衛生」で代替

「情報I」2単位は「生活産業情報」で代替

教育内容「調理理論と食文化概論」に対応

教育内容「調理理論と食文化概論」「調理実習」に対応

教育内容「食品と栄養の特性」に対応

教育内容「食品と栄養の特性」に対応

教育内容「食品の安全と衛生」に対応

教育内容「食生活と健康」に対応

「総合的な探究の時間」は「課題研究」で代替